

TOKYO MAIL NEWS



EAST
TRANSPORT
SERVICE WORKERS
UNION

輸送サービス労組 東京地本

JTSU-E TOKYO

2021.6.29
No. 344



6月21日、東京2020オリンピック・パラリンピックについて、会場の収容定員の50%以内で1万人を上限とすることを原則に観客を入れて開催することが決定されたとの報道がありました。また、競技会場が集まる東京の臨海部には1日で8万人を超える観客が集まる可能性があると試算も示されています。公共交通機関としての役割を持つJR東日本では、競技会場の最寄り路線における輸送力の増強や新幹線及び東京圏在来線での終電延長を行うことが「オリパラ輸送」として各職場で説明が行われています。

乗務員職場では、終電延長や増発の対応で行路が見直され、臨時行路も設定されることから7月、8月の特休調整を行うことも示されている中、7月に向けた新たなジョブローテーションによる異動の懲憑が行われています。組合員からは「特休が取られているのになぜ異動させるのか」「オリパラ輸送に支障が出る」などの不満の声が出ています。職場ではオリンピックを成功に導いていくために、オリパラ輸送における安全・安定輸送に万全を期していくことが説明されていますが、オリパラ輸送を控えた中で乗務員を異動させることに疑問を持たざるを得ません。本来なら体制を確保するためにこの時期の異動は差し控えるばかりか、養成に時間のかかる優等線区からの異動はもってのほかであり、オリパラ輸送が無かったとしても繁忙期を迎える中での異動は職場の現実からはかけ離れています。ましてや、一部の職場では特休調整を乗務員に事前に知らせずに「休日明示を参照してください」とだけ掲示で周知し、社員の生活設計すら配慮されない会社の姿勢に失望感とオリパラ輸送を本当に担う気があるのかと、会社への不信感が渦巻いています。

東京地本は、オリパラ輸送を担うにあたっては万全の体制が必要だと考えていますが、異動ありきとも受け取れる今回のジョブローテーションによる異動によって、組合員の生きがいや働きがいが損なわれることはあってはならないと考え、以下の通り申し入れを行いました。

1. オリパラ輸送に向けて、安全・安定輸送の体制と要員の確保のため、現在懲憑している新たなジョブローテーションによる異動を一旦中止・見直しをすること。

6月29日
東地申第57号

「オリパラ輸送の体制確保のため、新たなジョブローテーションによる強制配転の中止・見直しを求める」緊急申し入れを行う！

**オリンピックのオフィシャルパートナーとしてやるべきことではない！
早急な団体交渉の開催と真摯な議論を強く求めます！**